

「始まりはカボチャのタネ」

西村いくこ 名誉教授（理工学部 生物学科）が
AERAdot.で紹介されました

西村いくこ先生（理工学部／自然科学研究科 名誉教授）の、
当時は珍しかった女性教授としての研究者人生が、2023年9月
19日に発行されたAERAdot.のなかで紹介されました。

大学4回生の時に、カボチャのタネを材料とした研究を出発点
とし、西村幹夫先生（甲南大学 特別研究員）とともに、これ
まで考えられていなかった予想外の植物の能力をたくさん発
見されてきました。現在も楽しくご研究を続けられています。

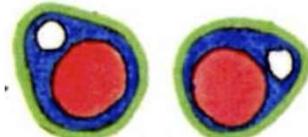
第18回 植物細胞生物学者 西村いくこさん
科学に魅せられて～女性研究者に聞く仕事と人生
<https://dot.asahi.com/articles/-/201647?page=1>



カボチャのタネ



細胞の中の液胞



貯蔵タンパク質の結晶



カボチャのタネは絶好の研究材料

タネの中には液胞（えきほう）とよばれる大きな袋がたくさん存在する。液胞の中には、発芽に備えて大量のタンパク質が貯蔵されている（中央図、赤色）。貯蔵タンパク質は正八面体の結晶を形成する（右図、甲南大学生物学専門実習で撮影）。



@konanbio

学科ニュース+α を生物学科SNSで配信中！

いいね！ 待っています



@konanbio

